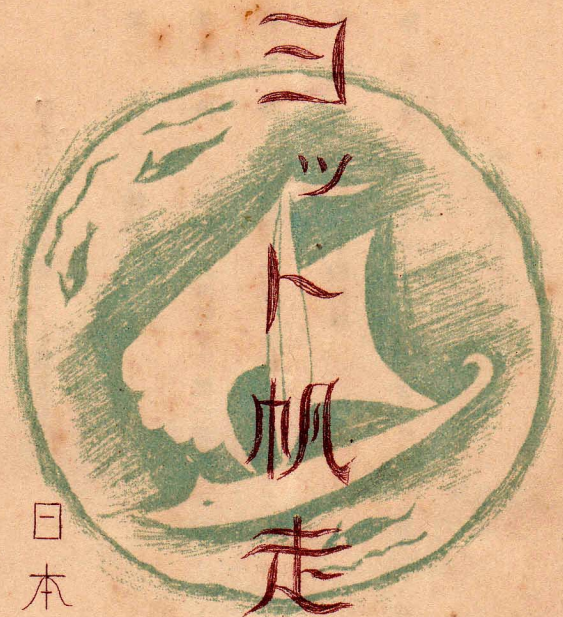


Yachting



日本ヨット倶楽部

昭和六年

第一冊

日本ヨット倶楽部ヨット叢書目次

第一冊 後論

第二冊 帆走の實際の各方面（主としてヨットのトレーニング）

第三冊 航行・気象・遠航（特にヨット・キャンピング）・帆走美論・術語集

第四冊 ヨット設計論

第五冊 ヨットの発達史・世界のヨット界大観・我々のヨット界と其将来

順次発行してゆきます。

序

盛夏の青海原を飛ぶ白帆は、何んとなしに朗らかな感じを与へる。艇内には心おきなきクルーの快笑もあり、クルーは海洋・氣象・造船・航海等の科学知識を把持し、感激の彼岸を、心地よき回想の夢を心にのせてゆく。……この白艇を思ふ時、明明なる人生を彼等のために祝福した。

せ、こましの世のこととを忘れ、一時間ごとこうした時を持ち得るなら、永遠に通ずる心の窓をそれだけ開いたこととなるのではなからうか。

夏の海的情景になくてはならぬものゝ一つとなつたのど、たゞ形骸的な白帆だけではなぬ。私達はそれかつたへる美のリズムを、現代社会生活の意識の表徴として許容した。

五月に、上海ヨット倶楽部員が黒潮を乗切つて我が長崎へ遠征してきた。近くでは十頓程のヨットで只一人太平洋を横断すべく我国に立寄つたマドロスもあつた。小艇を愛し、海洋の美を満喫するため、昔から数多くの企てが試みられた。汽船の盛大をのろふ気分からでは決してなぬ、また Round the world Back ward! の思想からてなぬ、海を象としたの小艇愛、明快なる海洋美追求からある。

我国は四面海を環らしてゐるので、海洋への憧れは、民族中ごと一倍大きい。か、科学を応用して初めて百パーセントの能率を發揮する帆走か何故盛んにならぬか。これは一般に海洋科学の知

識が欠けてゐるからである。海岸線が長いから海国民たとは云ひ得ない、海洋一切の科学が国民に普及してゐるかどうかが決定條件である。

現代科学の進んだ独逸が帆走船を重視するのは、*Yacht Club* の培ひと気転・イニシエチフの養ひが海の王者の力をなすものであるを看破してゐるからで、日常生活上我々の事物把持の手續はヨットによつて創造的進化の道を辿るとの志を断言する。

美の世界の認識はヨットマンシップを決定する。もしこれなきヨットは形骸に止まるであらう。闘志に統一せられた帆走美のリズムを辿る外にヨットはなし。読書と友情とを欠くヤッティンクはなし。

ヨットとは

一般にヨットと申しますが、日本語（在米の）では快遊艇（*any boat built for pleasure*）と謂ひ、海上で遊ぶために造つた船のことであり、種々區別がある。

α 動かす方から區別すると

(1) 動力艇 発動機の方によるもの（石油・重油・軽油・エンジンによる）

(ロ)帆走艇 風力による、即ち帆による

一、帆のみによる帆走艇

ニ、補助的に発動機を用ふる補助機関付帆走艇

b 艦装 (Rigging) から區別すると

F. 1. の通りの様に分けられる

C 艇の構造から分けると

(イ) センター・ホート・ヨット (移動龍骨式ヨット)

(ロ) デイープ・キール・ヨット (深吃木式ヨット)

①は龍骨に鉄板又は木の板がついてゐて自由に上げ下ろしが出来るヨットである。

②は龍骨が深く海中に入つて其一部に鉛がついてゐるのである。

d 吃水線で區別すると

六米 八米 十米 スター級 P級 Q級 ヒクトリア級 等呼ぶ。

吃水線が四十呎あれば四十フットと云ふことである。これはヨット・レースをやる時に必

要な區別である。

国際ヨット・レースはクイーンズ・カップ、後にはアメリカ・カップと称するカップの争奪戦に初

ヨットに対するに、米国の近代科学と黄金力と気軽るさが毎年火花を散らして戦つてゐるのである。(4)

ヨット設計はヨットの最も興味ある部門であつて、流線形・抵抗・浮力・重量・安定・耐久・速力・等の多律排反を、許される限り完全に如何に調和せしむるかの難問題がこれである。

ヨットをやる限り自らこの方面に開拓するにあらざれば、真の小艇愛の本質に触れぬかど知れな
い。子供を愛するためには子供を理解して全杖の傾杖を要する。この努力を惜む母がよく母として
の百パーセントの満足に浸り得るや、私はこれを否定する。

ヤツティングの奥は深い。偉大な *greatness* に通ずる美は、真は、永遠に彼岸へと叫ぶのであ
る。

ヨットはどつして走るか

木の上に浮いてゐるとのは、風が吹くと風下へ流されるのが一般の原則である。又、浮上すると
のは沈下部の抵抗に反比例して力の作用方向に移動するのど一般の原則である。

追風を受けて順走 (*Before the wind*) するヨットには説明がいらなと思ふ。しかしヨットは
真正横から風を受けて横走 (*abeam*) するし、前方約四十五度 (四点) の処から風を受けて詰開き

(closehauled) に走る。横走と詰開きとの中位を逆走 (By the wind) と云ふ。

(これは下に示す様に、風の方が艇を風下へ流すか(横圧力)と、艇を前進すか(推進力)とに分かれ、横圧力は食ひとめ、推進力のみを自由に伸ばす様ヨットを設計してあるからである。即ち艇の下にある大きい牛の舌の様なものは、艇が転覆しなす様鉛がつけてあると同時に平らたくして横面積を大にし、前圧抵抗は出来るだけ小にして横圧力を食ひとめ、推進力(Y)のみかのひるのである。

帆は風を穿むと中に丸味が出来て、実際、平坦な帆面は望み得ないから、帆面の任意な点 a b c 点で考へると、YよりY'が大で都合の点や、Y'のみで都合の悪い点やが出来る。実際はそれで前記の理論よりや、能率が悪いことになる。展帆にはこの考察が大変必要である。(F. 2)

横流れを防ぐために横圧抵抗をつくるの志と考へたが、原始選抜的に云へば横圧抵抗が大なるため艇の首尾線と帆が或角度をなす時、風圧力の分力が起るのであると云つた方が論理的正確さを持つ。しかし横圧力が横圧抵抗に resistance せられるのである。

横圧力は常に作用し続けるのだから、艇は多少横風下に偏流しなから前進(キール線の延長線をとどりに艇首の方へ動く)するのである。

さて、水に自由に浮泛してゐる艇を風の方向と異つた方へ動かすには、何か水と風と艇を人間の意思のまま制御・統制する一つの機構 (Mechanism) がなければならぬ。

それは艇の沈下部即ち側面抵抗（横庄抵抗）と帆と舵との三角形的機構で、こゝに有機的關連に相当するものである。此機構の把持は、自由なる海の王者の手練の把持の重大なる一つであらう。昔、ロビンフッドは六尺棒を廻して、あたふと一枚の盾の林に敵に見せた相であるか、彼はたしかに六尺棒の中心点を理解してゐたに相違ない。経験的にか、直感的にか！ 棒を指の上へ乗せて釣合つた処が中心点であるからすぐ判るのである。

ヨットの操縦と同様で、帆の中心と沈下部の中心とが判つてゐねば、ヨットを自由に走らすことが出来ない。

各帆の中心を帆心と云ひ、総帆の中心を公帆心と云ふ（F. 4）

A・B・Cは帆A・帆B・帆Cの帆心にして、其等各帆の総和の中心点Wは公帆心で、Lは側面抵抗の中心点である。

Lを通して引いた垂直線PP'は艇が廻轉する時軸となる線であつて、これを轉軸と云ふ。

轉軸PP'よりWが前であれば艇首が風下へ流されるし、後ろであれば艇尾が風下へ流される。（これと釣合かとれて居ないのである。前者の場合に其艇を下手舵の傾向ある艇と云ひ、後者の場合に其艇を上手舵の傾向ある艇と云ふ。）

ヨットが走る時には、帆は開きを持つからWは図に示したよりと前方になるから、其開きの程度に応じてWの位置は移動する。

それで其Wの位置に依じて、艇首を風下へどんく流れ放しにせず、適当な舵を引かねばならぬ
こととなる。

モテル・ヨットでは初め帆の角度（開き）を定めて置くのだから、其れに適應した舵を引いて置
けは、風の方向と強さが変らず従つて艇の傾斜が変化しなかつたら、いつまで同一コースに帆走
してゆくのである。

艇の傾く度合が変ると、舵の効き具合が變つてくる、即ち舵は真すぐに艇が立つ程よくきく。横
に艇がたむく程舵はきかぬ。だから傾斜が變ると舵のきかたが變り、前述の釣合が變つてく
るのである。

尚、帆の開きの度はWの位置を移動せしめることから考へれば、艇首が風下へ落ちるなら前帆の
シートをゆるめるか、後帆のシートを締め込むか、どちらかやればよい。艇尾が流れる場合はこの
反対をやればよい。両方の帆を同時に一つの目的に操作を帰一せしめたら、修正は顕著に効果か上
るであらう。

ヨットは普通横走に際して五、六度の上手舵で目的地へ直行出来る林釣合つてゐるのを理想とする。
これ以上舵を引くと舵面の抵抗で大変前進が妨げられるのである。又これより少々のと操作が、運
航が敏治にゆかぬ。なせ上手舵かよひかは、強風がきた時たやすく諸君はなる程有難いと思はれ
ることであらうから特に説明を要しなす。

最後に帆の開きに於じ、風向との相関々係に於いて各種帆走があることは前に一寸説明してあるが、詳しくは（F. 5）で御理解願ひたい。

各種帆走型の實際上のことについては、演練の方がよく理解出来る。しかしこれに言及することゝ帆走の主要部分である。只本書の目的や許された紙数から割愛したのである。第二冊には詳細に入つてゆくことにする。

昭和六年七月十日印刷
昭和六年七月十五日發行

— 第一冊 —

著者 宮崎 晋 一

吉本 正 雄

大津市中保町

發行所 日本三ツト俱樂部

製復許不

東京都東區町七七八

印刷所 粟日詩社

振替支店六九四九七番